

策定の経緯

- 平成5年4月29日 開館
- 平成24年6月 松戸市立博物館協議会からの意見を受け、博物館内リニューアル研究会発足
- 平成27年7月 今後の主要なターゲットを子育て世代・家族連れに設定し研究を継続
- 平成29年6月 松戸市立博物館協議会にて、こども向け展示構想について議論
- 平成29年10月 松戸市立博物館協議会に博物館リニューアル展示構想について諮問
- 平成31年3月 松戸市立博物館協議会から「（仮称）こども歴史博物館」について答申を受ける
- 令和元年8月 松戸市立博物館協議会にて、博物館リニューアル基本構想・基本計画について協議を開始

- ① 開館以来一度も展示替えせず、最新の研究成果も反映されず、利用者が固定化
- ② 21世紀の森と広場を中心とした子どもが集う自然型の文化交流拠点としての位置づけ
- ③ 耐震性を考慮した吊り天井改修を含めた大型改修工事の必要性
- ④ 令和元年度企画展「こどもミュージアム」の成功

世界・国の動向

令和元年（2019年）に開催された ICOM（国際博物館会議）京都大会では、「Museums as Cultural Hubs（文化をつなぐミュージアム）」のテーマのもと、様々な文化の繋ぎ役として「博物館」の可能性が提示され、世界規模で博物館の役割や存在意義が問い直されている。

わが国の方針としても、「地域の文化を発信する核」「新たな文化創出につながる拠点」「社会教育の振興」「文化振興」「文化クラスター」としての役割を担うこと、更に「文化観光拠点施設」として文化芸術基本法が制定されるなど、博物館の新たな可能性について期待が持たれているところである。

松戸市の方針

松戸市立博物館は、これまでの機能・役割を見直し、より高度な資料の保存と活用を通して、多くの分野、地域、人と人、過去から未来への繋ぎ役として新たな文化施設へと進化することを目的に、「松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画」を策定する。

これから10年間の計画骨子（案）

使命／ミッション（案）

松戸市立博物館は、3つの社会的な役割を果たすために活動します

- ◎ 松戸市立博物館は、松戸の3万年の歴史と文化を研究し、その「知」の集積をもとに未来を展望するために誰もが活用できる歴史博物館をめざします。
- ◎ 多くの市民が松戸の歴史と文化を楽しみながら価値を発見し、「ふるさと松戸」に対する愛着と誇りを育むことができる地域博物館をめざします。
- ◎ 未来を担う子どもたちを育み、多くの人々をつなぎ、協力を推進し「ひとづくり」に貢献できる文化交流の場をめざします。

基本目標（案）

松戸市立博物館は、使命達成をめざして、5つの事業目標を掲げ、市民のために取り組みます。

パブリックリレーション
（社会との良好な関係づくり）

事業目標-1 エリア戦略
広域的な文化交流拠点の形成

松戸市立博物館は、
千駄堀エリアの文化環境や自然環境を生かし、
周辺施設との連携を強化し、
市民のための文化交流拠点をつくりあげます。

事業目標-2 広報戦略
博物館の価値をアピール

これまで蓄積してきた
研究成果や貴重な文化財など
松戸市立博物館の価値を強烈にアピールし、
博物館の認知度アップをめざします。

事業目標-3 ターゲット戦略
新しいファン層の獲得

松戸市立博物館は、
家族で楽しみ集える博物館をめざし、
新規利用者の開拓に努め、共に博物館を
盛りあげていく仲間づくりを推し進めます。

インフラストラクチャー
（基盤整備）

事業目標-4 施設戦略
施設の長寿命化

多様な利用者に対応できるよう施設の充実を図るとともに、
今後も持続可能な博物館活動を展開できるよう
施設・設備の長寿命化を図ります。

事業目標-5 展示戦略
新たな展示空間の創設

子どもも大人も楽しく、松戸の歴史と文化を学ぶことができる
「こども歴史体験ゾーン」を整備します。
また、常設展示室全体の充実も図ります。

事業計画(案)

事業目標	取組	施策
1.エリア戦略 広域的な文化交流拠点の形成	①千駄堀地区文化交流拠点として位置づけ ②観光拠点としての情報発信 ③県西部の中核館としての位置づけ	① 21世紀の森と広場、森のホール21と連携し、文化交流拠点の一角として恵まれた自然環境の中で「音楽・芸術」「自然」「歴史・文化」を味わえるコンテンツやイベントを企画、良質な文化を提供し、集客力アップを目指します。 ② 戸定歴史館など市内文化施設などと連携を深め、文化財を通じて松戸の歴史を知る・探る「観光ルート」や「歴史の道」などの情報を発信します。 ③ 市外の博物館などとも連携し、県西部の中核館として歴史・文化の更なる普及・発展を目指します。
2.広報戦略 博物館の価値をアピール	④所蔵文化財の価値の発信 ⑤ICTによる文化財情報の整理・発信	④ 県唯一の縄文重要文化財「幸田貝塚」の土器群をはじめ、数十万点にも及ぶ市の貴重な所蔵文化財の調査研究を深め、魅力を発信することで、「松戸ブランド」として誇りと親しみがもてる多角的な活動を展開します。 ⑤ 教科書とは一味ちがう「松戸3万年の歴史」の見どころを、最新の研究成果をICT（ホームページ・SNS）活用をはじめ、様々な方法で発信していきます。
3.ターゲット戦略 新しいファン層の獲得	⑥子育て世代の博物館の利用支援 ⑦地域とつながる、市内地域の歴史的文化の発信 ⑧学校教育施設などとの連携強化	⑥ 子育て世代の博物館デビューや家族による利用を積極的に支援し、憩いの場として楽しく利用できる環境を提供します。 ⑦ 縄文遺跡、御鹿狩、常盤平団地、小金城・根木内城、獅子舞をはじめ、市内各地域の歴史文化を通じて松戸市立博物館友の会などの諸団体と繋がることで「交流」を形成し、更に郷土への理解と愛着が深まる仕組みを作ります。 ⑧ 学校（小・中・高校・大学・専門学校等）との連携を強化し、教員・生徒へのアウトリーチ活動を展開します。また、NPOや企業などと連携し、家族で楽しいワークショップ、グッズなどを企画開発し、歴史・文化の魅力を発信します。
4.施設戦略 施設の長寿命化	⑨インクルーシブデザインの導入 ⑩施設の長寿命化計画	⑨ 外国人、障害者、高齢者など、誰もが安心・安全で、平等に利用できるインクルーシブデザインの施設を目指します。 ⑩ 震災・火災・水害等の脅威にも耐えられるよう、文化財の展示・所蔵環境を見直します。さらに文化財を未来に受け継ぐための施設整備・改修計画を作成し、長寿命化に対応します。
5.展示戦略 新たな展示空間の創設	⑪こども歴史体験ゾーンの整備 ⑫新しい発見や学びのための可変的な展示 ⑬ニーズに対応した快適な展示空間	⑪ 見て触って楽しみながら松戸の歴史・文化の深さを知ることができる「こども歴史体験ゾーン」を整備し、こども、家族で日常的に利用できる学習の場を提供します。 ⑫ 可変的展示空間を創設し、来るたびに新しい発見や学びを深めることができる展示を提供します。 ⑬ わかりやすい解説から深い学びまでそれぞれの利用者に対応でき、誰もが快適に過ごせる常設展示へ整備します。

先行整備予定